



防災×テクノロジー官民連携PF
第10回マッチングセミナー

防災の取組みに関する現状と課題認識

2025年2月20日

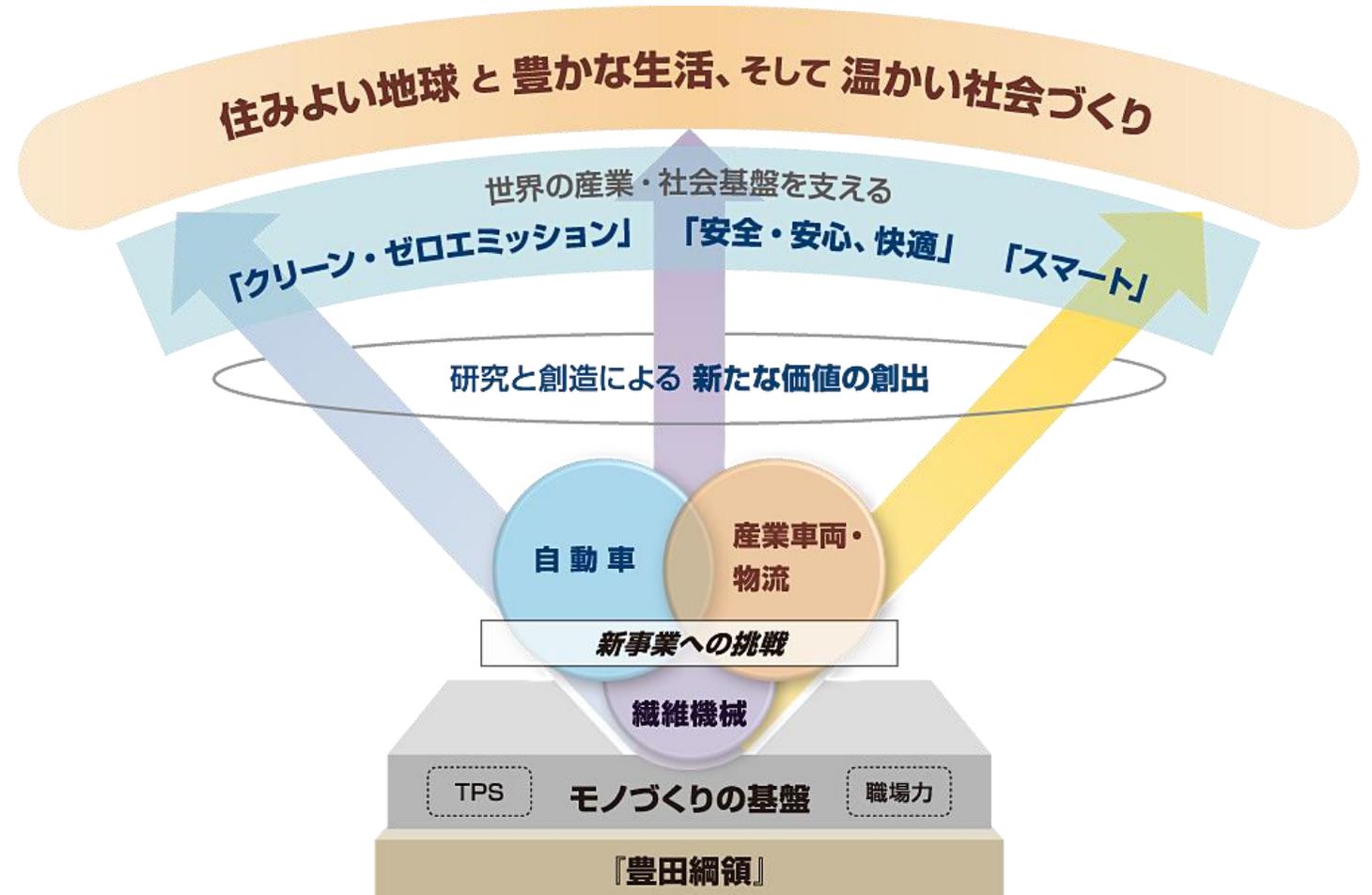
 豊田自動織機

Copyright(c) 2024 TOYOTA INDUSTRIES CORPORATION. All rights reserved.

1. 企業理念・ビジョン

■2030年ビジョン

お客様のニーズを先取りする商品・サービスを継続的に提供することにより、世界の産業・社会基盤を支え、住みよい地球と豊かな生活、そして温かい社会づくりに貢献する。



2. 持続可能な社会に向けて

事業を通じて社会課題を解決

■ クリーン・ゼロエミッション



事業活動でのCO₂排出や廃棄物の削減、環境配慮型製品の提供拡大などを通じ、地球温暖化の防止と循環型社会を実現し、将来にわたって住みよい地球環境の維持・向上へ貢献します。

2030年目標値

CO₂排出量削減率
(2013年度比)

50%

2. 持続可能な社会に向けて

事業を通じて社会課題を解決

■新たな価値の創出、スマート



新たな価値を創出する技術革新やイノベーションで社会課題を解決し、スマート社会とより豊かな生活の実現へ貢献します。

電動化・自動化の
研究開発費比率

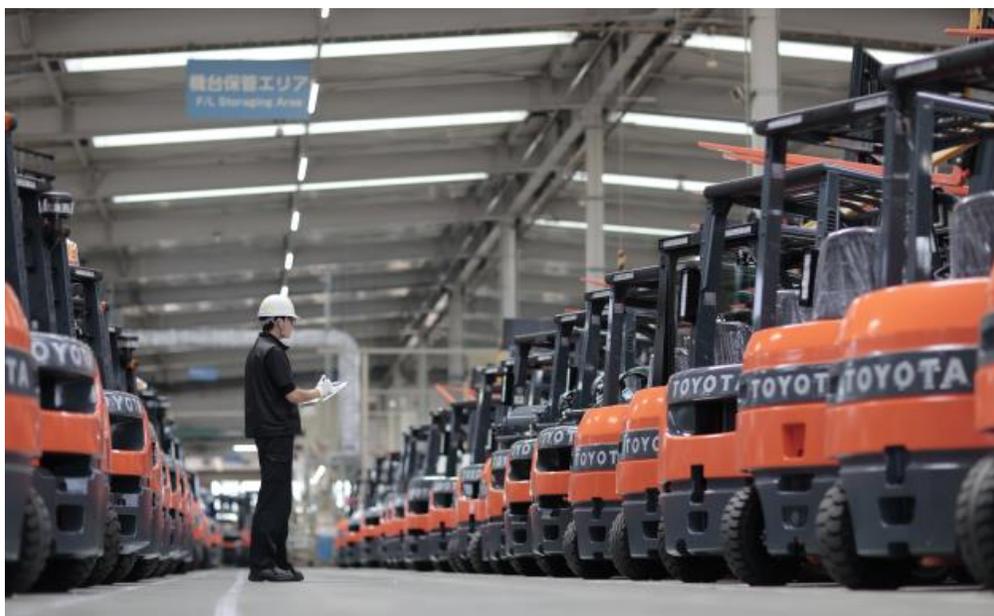
2030年目標値

70%以上

2. 持続可能な社会に向けて

事業を通じて社会課題を解決

■安全・安心、快適



お客様をはじめ、様々なステークホルダーのニーズを先取り、安全に安心して快適に利用いただける商品やサービスを提供するとともに、社会の一員としての務めを果たし、ともに発展することで、温かい社会づくりへ貢献します。

2030年目標値

売上高に占める
電動化関連商品の比率

70%以上

3. 会社概要



会社名	株式会社豊田自動織機 (Toyota Industries Corporation)
設立	1926 (大正15) 年11月18日
本社所在地	〒448-8671 愛知県刈谷市豊田町2丁目1番地
電話番号	(0566) 22-2511 (代表)
代表者	取締役社長 伊藤 浩一
事業内容	繊維機械、産業車両、自動車・自動部品の製造・販売
資本金	804億円 (2024年3月31日現在)
従業員数*	77,824名 (2024年3月31日現在)
連結子会社数	277社 (国内35社、海外242社) (2024年3月31日現在)
持分法適用 関連会社数	18社 (国内9社、海外9社) (2024年3月31日現在)

* 就業人員



4. 連結財務サマリー (2023年度)

■部門別売上高

繊維機械
2.4%
933億円

その他
1.5%
562億円

自動車
28.6%
1兆964億円

売上高*1

3兆8,332

億円

2023年度

産業車両

67.5%
2兆5,872億円



RAV4



ディーゼルエンジン
1GD-FTV型



電動コンプレッサー
ESBG27



車載充電器・
DC-DCコンバーター
一体ユニット



*1 国際会計基準 (IFRS) に基づく 注: 業績数値は億円未満切捨て



5. 国内工場・支社



本社・刈谷工場

所在地：愛知県刈谷市
生産品目：繊維機械、
カーエアコン用
コンプレッサー



大府工場

所在地：愛知県大府市
生産品目：カーエアコン用
コンプレッサー部品



共和工場

所在地：愛知県大府市
生産品目：自動車用プレス型、
生産設備、車載電池



長草工場

所在地：愛知県大府市
生産品目：自動車



高浜工場

所在地：愛知県高浜市
生産品目：産業車両、
物流システム機器



碧南工場

所在地：愛知県碧南市
生産品目：自動車用・産業用
エンジン、
ターボチャージャー



東知多工場

所在地：愛知県半田市
生産品目：鋳造品、
自動車用エンジン、
ターボチャージャー



東浦工場

所在地：愛知県知多郡東浦町
生産品目：カーエアコン用コン
プレッサー部品



安城工場

所在地：愛知県安城市
生産品目：電子機器、
燃料電池車用製品



石浜工場

所在地：愛知県知多郡東浦町
生産品目：車載電池



森岡事業所

所在地：愛知県知多郡東浦町
生産品目：自動車部品



東京支社

所在地：東京都千代田区
丸の内



6. 防災の取組みと課題

■取組みのねらい

1. 実行性の向上 「どのような状況でも行動できるか（時間帯、天候など）」
2. 実効性の向上 「より効果的な方法がないか（デジタル化、新技術導入など）」



防災のしくみを点検、課題抽出

■これまでの取組み

1. 災害対策本部機能の継続力向上

- ・ 時間帯、形態を問わない本部運営
 - ✓ オンラインでの本部立上げ、情報共有
 - ✓ 電源の拡充
 - ✓ 通信の強化
 - ：

2. 全社初動対応力の向上

- ・ 各人の更なる安全安心の確保
 - ✓ 屋外避難時間の最小化（建屋診断システム）
 - ✓ 荒天時の対策
 - ：

6. 防災の取組みと課題

■社外の被害状況の把握

【概要】 従業員の帰宅可否、事業継続可否の判断材料や、事業所周辺地域の皆様への情報提供のために工場周辺の道路、橋梁などの状況を確認

【現状と目指す姿】

	現 状	目指す姿
し く み	<ul style="list-style-type: none">・ 予め決めた確認ポイント（各工場の半径数キロ圏内）へ移動、カメラ撮影・ 撮影データはシステムへ登録、共有	<ul style="list-style-type: none">・ 安全かつ誰でも利用可能な方法で状況確認・ 見たい時に見たい箇所を確認
課 題	<ul style="list-style-type: none">・ 撮影に向かう従業員の安全確保・ 時系列での状況変化への追従 →ドローン、定点カメラ、SNS活用等トライ	<ul style="list-style-type: none">・ （自治体定点カメラによる広域情報収集、有事の際の限定的な公開）

6. 防災の取組みと課題

■被害状況の社内共有

【概要】 社内意思決定のため、事業所内や周辺の被災状況（テキスト、映像）を社内関係者と共有する

【現状と目指す姿】

	現 状	目指す姿
し く み	<ul style="list-style-type: none">共有手段としては、MS Teams、MCA無線、衛星電話を想定	<ul style="list-style-type: none">大規模災害時でも安定した通信環境の実現使い勝手に優れた通信機器 (屋内外、天候によらず利用でき、音声通話、画像などの共有)
課 題	<ul style="list-style-type: none">ネットワークの途絶リスク通信機器の使い勝手 →スターリンク導入トライ	

6. 防災の取組みと課題

■避難時の携行品の持ち出し

【概要】 必要となる携行品（キー、スマホ、財布）を各自が屋外避難の際に、円滑に持ち出し

【現状と目指す姿】

	現 状	目指す姿
しくみ	<ul style="list-style-type: none">・ 常時携行可能な職場（一般的オフィス）に対して、持ち出しの必要性を啓発	<ul style="list-style-type: none">・ 帰宅時などに必要となる携行品を全員が円滑に持ち出せる
課題	<ul style="list-style-type: none">・ 常時携行が難しい職場（製造現場）での持ち出し対策	<ul style="list-style-type: none">・ 携行品をかさばらず収納可能でき、身に付けられる薄型ポーチの導入・ 工場出入口付近への貴重品保管ロッカーの設置

6. 防災の取組みと課題

■避難時の点呼

【概要】 災害発生時に従業員、構内のお客様の点呼の確実な実施

【現状と目指す姿】

	現 状	目指す姿
し く み	<ul style="list-style-type: none">・原則として一旦は屋外避難・人によるアナログでの点呼	<ul style="list-style-type: none">・個人単位での工場内への入場者把握・入場者全数に対する確実な点呼と迅速な結果集約
課 題	<ul style="list-style-type: none">・職場単位で点呼し、結果を集約・時間がかかる、集計ミス・個人単位での入場者管理 →RFIDタグ,QRコードを用いた点呼トライ	

6. 防災の取組みと課題

■防災人材の育成

【概要】 災害発生時に陣頭指揮を執れるリーダー人材の育成

【現状と目指す姿】

現 状		目指す姿
し く み	<ul style="list-style-type: none">・ 訓練への参画を通じてOJTでの人材育成	<ul style="list-style-type: none">・ 冷静な状況判断、集団への指示ができるリーダーを育成するスキームの確立
課 題	<ul style="list-style-type: none">・ リーダー人材の人選基準の有効性・ 体系的な教育プログラムは未確立	<ul style="list-style-type: none">・ 人選基準（テスト、適性診断など）・ 効果的な教育訓練プログラム、ツール

ご清聴ありがとうございました

